

アジア通信第十五回 シンガポールで世界一周



山田ビジネスコンサルティング(株)
アジア事業本部

シンガポールは、人口は約 520 万人、面積 710 平方キロメートル¹(東京 23 区ぐらい)のとても小さな島国ですが、その中に全世界が凝縮されています。シンガポールには全世界から人が集まり、それぞれの出身国・民族ごとに、町や溜まり場を作っています。そんなシンガポールですので、ここに居ながらにして、全世界を旅することが可能です。早速、読者の皆様も、筆者と共に、シンガポール島内世界一周の旅に出かけてみましょう。

1. 韓国 

<厦門ストリートの韓国焼肉店>



最初は日本のお隣の韓国です。タンジョンパーガーや厦門(アモイ)ストリート(左の写真)という場所が韓国人の溜まり場です。ここには沢山の韓国料理店が並んでいます。この場所以外にも、多くの韓国料理店を見かけます。スマホや K ポップだけでなく、食の分野でも韓国は存在感を示しています。シンガポールに住んでいる韓国人は約 17,000 人²です。

先日(2013年6月22日)、シンガポールでアジアスタイルコレクションというファッションイベントが開催されました。このイベントは、東京ガールズコレクションのアジア版です。アジアスタイルコレクションには、日韓の歌手が出演していましたが、少女時代などの韓国歌手の人気は、日本の AKB48 などを完全に凌駕していました。日本勢は韓国勢の前座といった感じです。まるで、昨今の家電業界を見ているようでした。

2. 中国 

シンガポール人(シンガポール国民と永住者、以下同じ)の約 74%³が中華系住民ですが、別途、中国国籍の中国人が約 100 万人⁴もいるようです。

ホーカー(屋台風食堂)の店員・バスの運転手として出稼ぎに来ている人、フェラーリなどのスーパーカーを乗り回している人、シンガポールのコンドミニアムを買いに来ている人など、中国本土から、多様な中国人がシンガポールに来ています。

シンガポールでは、GIORDANO(ジオルダノ)や BOSSINI(ボッシーニ)などの香港のアパレルブランドが、すっかり浸透しています。

¹ ジェトロ資料 2011年6月現在。人口約 520 万人のうち約 380 万人がシンガポール国民及び永住者。残り約 140 万人が 1 年以上滞在外国人。

² シンガポール韓国人会 2011 年

³ ジェトロ資料 2011 年 6 月現在

⁴ 資料なし。一般的に言われています。この中には、恐らく、出張者・旅行者などの短期滞在者も含まれていると思います。

3. フィリピン

<ラッキープラザのジョリビー>



シンガポール随一の繁華街オーチャードロード沿いにあるラッキープラザがフィリピン人の溜まり場です。ラッキープラザには、フィリピンで最もメジャーなファーストフード店”ジョリビー(Jollibee 左の写真)”があります。この店は入場制限しなければならないほど人気があります。

シンガポールに在住するフィリピン人は約12万人です⁵。フィリピン人の多くはメイドなどの出稼ぎ労働者です。ちなみにフィリピン国民の約10% 1,000万人が海外に出稼ぎに来ていて、その送金収入はフィリピンのGDPの約8.5%に達しているようです⁶。

4. ベトナム

<ジューチャットロードのベトナム料理店>



ジューチャットロードがベトナム人の溜まり場です。ここでは、とても安くて、とても美味しいベトナム料理を食べることが出来ます。この辺りは歓楽街でもあります。

また、シンガポールには、ベトナムのコーヒーショップ TRUNG NGUYEN COFFEE(チュングエンコーヒー)が進出しています。バターローストの濃厚なベトナムコーヒーの味は格別です。値段はスターバックスよりも少し高めです。

5. インドネシア

<シティプラザ>

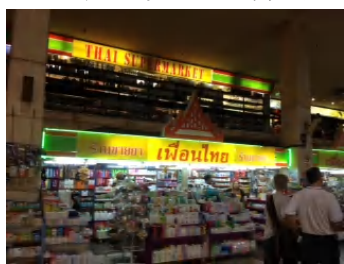


約18万人⁷ものインドネシア人が在住しています。オーチャードロードのマウントエリザベス病院周辺、イーストコースト、シティプラザ(左の写真)などがインドネシア人の溜まり場です。

シンガポールの不動産に投資している富裕層からメイドや肉体労働者として出稼ぎに来ている人まで、多様なインドネシア人がシンガポールに来ています。

6. タイ

<ゴールデンマイルコンプレックス>



タイ人の溜まり場はゴールデンマイルコンプレックス(左の写真)という商業ビルです。

このビルには、タイ料理店の他、タイ人のための食材を売っている市場やタイ人のためのディスコなどが入っており、全てタイづくしとなっています。シンガポールで食べるタイ料理は美味しくありませんが、ここで食べるタイ料理は美味しいです。

⁵ 2007年 Wikipedia, the free encyclopedia

⁶ ジェトロ資料 2012年

⁷ インドネシア大使館 2010年

7. マレー人・イスラム社会

<ゲイラン・セライ>



マレー人は、インドネシアやマレーシアの多数派民族であり、また、シンガポール人の約13%⁸がマレー系住民です。シンガポールには、多くのマレー人が住み、アラブストリートやゲイラン・セライ(左の写真)など、多くのマレー人の溜まり場があります。マレー人の多くはイスラム教徒でもあり、シンガポールはイスラム社会への入り口でもあります。

8. ミャンマー

<ペニンシュラプラザ>



ペニンシュラプラザ(左の写真)という商業ビルがミャンマー人の溜まり場です。このビルの中には、ミャンマー料理店、ミャンマー人向け雑貨屋などが入っています。このビルの前のゴミ箱に、血のような赤い汁を吐き出している人を見かけますが、その汁は噛みタバコを噛んだ時に口の中に溜まる汁です。噛みタバコはペニンシュラプラザ内で配られて(売られて?)います。ミャンマーの名産品なのでしょう。

ペニンシュラプラザとは離れた地域にも、マンダレーロードやイラワジロードなど、ミャンマーの地名がつけられた通りが存在します。どのような由来か筆者は知りませんが、ミャンマーとシンガポールの繋がりはとても深そうです。

9. インド・バングラディッシュ

リトルインディアはインド人だけでなくバングラディッシュ人の溜まり場でもあります。シンガポール人の約9%⁹がインド系です。そこかしこの工事現場で働いている労働者の多くはバングラディッシュからの出稼ぎです。

10. ネパール

シンガポール警察には、ネパールの山岳地帯出身の”グルカ兵”が警官として在籍しています。グルカ兵は、世界最強の兵士として有名で、世界各国の軍隊で働いています。グルカ兵警官はシンガポールでも、”ククリ”と呼ばれる湾曲したナイフ(短刀)で武装しています。

11. 欧米

多国籍企業のアジア統括本社等に勤務する欧米人(ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリアなど)もシンガポールに沢山住んでいます。欧米人はオーチャードロードの西北方面の高台にある大豪邸などに住んでいます。もちろん、欧米人が皆そんなところに住んでいるわけではありません。

欧米系企業はアジアに広く深く浸透しています。コカコーラ、P&G、ユニリーバ、スターバックス、KFC、マクドナルドなどの欧米企業は、アジアの最終消費市場において、日本企業の遙か先を走っています。

⁸ ジェトロ資料 2011年6月現在

⁹ ジェトロ資料 2011年6月現在

12. 日本



<明治屋>



シンガポールに在住する日本人は約 26,000 人¹⁰ です。日本人の代表的な溜まり場は、高級スーパー明治屋(左の写真)が入っているリャンコートという商業ビルとカッページプラザという飲み屋ビルです。カッページプラザは”昭和”の香りが漂う場所です。このカラオケスナックは、中高年が心置きなく昭和の歌を歌うことが出来る、日本以上に日本っぽい場所です。

近年、シンガポールで日本食レストランが急増していると言われていますが、欧米系と比べると、日系飲食チェーンの店舗数はまだまだ少ないと感じます。まだまだ少ないので、少し増えると目立つ、そこから転じて”急増”しているように見えているだけと感じます。個々の日系飲食チェーンを見ると、“点”で出店しているだけのものが大多数で、“面”で展開して、こちらで浸透している企業は多くありません。日系企業の本格進出はこれからといったところでしょうか。

ちなみに、太平洋戦争中、シンガポールは、日本の占領下にありましたが、その当時には、昭南島(しょうなんとう)という名前になっていました。また、当時のラッフルズホテルの名前は昭南旅館でした。

シンガポールに全世界が凝縮されていること、イメージ頂けましたでしょうか。また、シンガポールがアジアの中心である、更に、世界中の有力企業が注力するアジアの中心 シンガポールは世界の中心の一つである、とすることができるのではないのでしょうか。

日本全国で事業を展開している企業・日本全国にトレンドを発信している企業の多くが、日本の中心 東京に本社を置いているのと同様、アジア広域で事業を展開している企業・アジア広域にトレンドを発信している多国籍業の多くが本社機能(アジア統括機能)をシンガポールに置いています。

アジアのマーケット拡大を背景に、シンガポールは、ますます、本社機能設置場所としての魅力を高めつつあります。

¹⁰ 2011 年 日本大使館在留届出者数